

二十歳を迎えた 福岡県立大学

福岡県立大学附属研究所棟完成&開学20周年記念式典

3月6日、福岡県立大学で、新たに建設された附属研究所棟の完成式と開学20周年を記念した式典が開催されました。



▲テープカットで附属研究所棟の完成を祝いました

附属研究所棟完成式

今回、新たに建設された附属研究所棟には、これまで大学内に分散していた「生涯福祉研究センター」「ヘルスプロモーション実践研究センター」「社会貢献・ボランティア支援センター」が入り、1ヶ所に集約されました。また、世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記などの作品群を展示保管するスペースも備えています。

平成23年10月に建設に取りかかったこの附属研究所棟は、軽量鉄骨2階建てで、延べ床面積は1千324平方メートル。中でも作兵衛氏の作品群の展示、保管スペースは耐火構造になっており、さらには温度や湿度を管理する設備や防犯カメラを設置。今後は作品の劣化を防ぎながら、厳重に管理していくそうです。

完成式では、入り口近くの多目



▲再現された書齋を眺める見学者

的ホールに福岡県立大学が保管する、作兵衛氏の旧宅にあった机やいす、背広などを展示し、作兵衛氏の書齋を再現。また、展示室やその周辺には近隣の住民から寄託された炭坑記録画の原画なども展示され、訪れた人たちは興味深そうに眺めていました。

3月末まで附属研究所長だった松浦賢長教授は「地域のみならずと一緒によぶことのできる、手ごろなサイエズの研究所棟が完成した。地域貢献の拠点施設にしていきたい」と話しました。また、この日会場を訪れた「作兵衛さんを読む会」の広滋勝己さんは「作兵衛さんの作品が世界記憶遺産に登録されたことは大きな喜び。今後の活動の励みになります。ちよつと書齋はきれいすぎるかな」と笑顔で感想を話しました。

20周年記念式典

附属研究所棟完成式の後、講堂に場所を移し、福岡県立大学開学20周年記念式典が行われました。

福岡県立大学は平成4年に前身の福岡県立社会保育短期大学から、さらなる社会福祉の人材育成を目指して4年制大学として開学しました。開学当初は人間社会学部社会学科（現公共社会学科）、社会学科、人間形成学部の1学部3学科でしたが、平成15年度に看護学部看護学科が設置されました。



▲記念式典で式辞を述べる名和田学長

連携も視野に入れ、さらなる社会貢献を果たしていきたい」と話しました。

これからに向けて

20周年というひとつの節目を迎えた福岡県立大学。平成22年度には、田川市と包括的連携協定を締結し、これまで以上に連携を深めています。今後も田川地域の教育研究機関の拠点として、官学連携の仕組みをさらに強化しながら、地域に開かれた大学として、ますます発展していくことが期待されています。

この日開かれた記念式典には、地元関係者や、福岡県立大学が協定を結んでいる中国の北京中医药大学、韓国の大邱韓医科大学、三育大学から、総長などの大学関係者が多数出席し、20周年を祝いました。

式典の中で、福岡県立大学の名和田新学長（当時）は開学してからの20年を振り返り「大学として社会貢献の面で極めて高い評価を受け、その成果を全国に発信できたことは大きな喜びです。中でも、田川市と共同で申請した、山本作兵衛氏の炭坑記録画や記録文書が世界記憶遺産に登録されたことは、大学がなし得た大きな功績。今後は資料のデジタルアーカイブ化や海外の産炭地の大学などとの

